

令和3年度枚方市立中宮中学校 学校評価

1. 学校教育目標

<p>すべての生徒に、自分と社会を結びつけて考え、行動できる力を育成する</p> <p>《めざす子ども像》・・・自分と社会を結びつけて考え、行動できる子ども</p> <p>《育む3つの力》 『考える力』・・・主体的に物事をとらえ、多角的、多面的に考えることができる力</p> <p>『言語力』・・・相手の考えを読みとり、聞きとる力・自分の考えを書き、話して伝える力</p> <p>『コミュニケーション力』・・・人とつながり、協働して答えを導き出す力</p> <p>・違いを認め合い、いじめや差別を許さない豊かな人権感覚</p> <p>・ICTを正しく活用し、必要な情報を手に入れ、発信する力</p>

2. 学校経営方針

<p>《教育の目的、地域の学校の役割を達成し、生徒・保護者から信頼される学校を実現する》</p> <p>1. 組織的な学校運営の継続・発展 2. 自分と社会を結びつけて考え、行動できる力の育成</p> <p>3. 学習指導の充実 4. 生徒指導の充実 5. 小中一貫教育の推進、充実</p>

3. 本年度の取組内容及び自己評価

基本 方策	項目	・本年度の重点目標	○具体的な取組内容 (◆活動指標・成果指標を含める)	□取組内容の自己評価 ◆生徒調査% ◇保護者調査%()は昨年度%
確かな学びと自立の力を育む教育の充実	教育課程 ・学習指導 ・キャリア教育	(1)学力向上 (学ぶ力の保障)	<p>①中宮中授業スタイルに基づき、ICTを活用して「主体的対話的な深い学びのある授業」授業を行い、「考える力」「言語力」「コミュニケーション力」を育てる。</p> <p>②単元テストや小テスト、補充学習などの実情を踏まえた、基礎学力定着の組織的な取組により、低学力の生徒の学力を保障する。</p> <p>③トライシャパニーズや週末宿題に加え、計画的な家庭学習課題提示やICTの効果的な活用により家庭学習力を育成する。</p> <p>④授業のユニバーサルデザイン化と合理的な配慮の視点に立った学習支援により、支援が必要な生徒の「困り感」を解消し、「ともに学ぶ」を保障する。</p>	<p>①生徒の学びを止めず、深めるためにICTを活用したオンライン授業やハイブリッド授業、感染予防に取組みながら、学習班を生かした協同学習を進め、「考える力」「言語力」「コミュニケーション力」の育成に取組みました。</p> <p>②低学力の生徒の学力保障のために、各教科でテスト前補習を行いました。学力保障のために、さらに効果的な方法を工夫する必要があります。</p> <p>③家庭学習習慣の定着は2極化が進んでいます。現状を踏まえて、効果ある取組みについて検討しています。</p> <p>④「学習障害」や「困り感」のある生徒がいることを念頭に、授業プリントや、テストへのルビ打ち、教室前面へのカーテンの設置など、ユニバーサルデザイン化を進めています。</p>
		(2)社会の中で 他者と支え合い 自立する力の育成	<p>①総合的な学習を軸としたカリキュラムとキャリアパスポートを活用したキャリア教育の充実により、「自分と社会を結びつけて考え、行動することができる生徒」を育成する。</p> <p>②一人ひとりの生き方につながる進路学習と、人権に配慮した進路指導により、すべての生徒の希望する進路を実現させる。</p> <p>●学力・学習状況に関する諸調査の結果の改善</p> <p>●授業力アンケートや学校教育自己診断などの生徒アンケート結果の向上</p>	<p>①コロナ禍による制約の中で職業体験やフィールドワークができませんでしたが、オンラインを生かした職業講話や海外留学生との交流、SDGsに関わる学校外での取組みなど新しい取組みをすすめました。</p> <p>②学年ごとに進路学習を進めていますが、キャリア教育全体について、時期や内容を充実させる必要があります。</p> <p>●大阪府チャレンジテストで改善傾向が見られます(中2)</p> <p>◆授業はわかりやすい。92.1(93.5※工夫した先生が多い)</p> <p>◆授業で学級の友達と話し合う活動では、話し合う内容を理解し、相手の考えをよく聞き、友だちの考えを受け止めて、自分の考えをしっかりと伝えていた95.6%≪84※全国中3≫</p> <p>◆授業では、わからない課題にぶつかった時、ノートや教科書などを調べたり、友だちや先生に質問したりするなどして、わかろうと粘り強く取り組めた90.4%≪81※全国中3年≫</p> <p>◆家で学校の授業の予習や復習をしている 57.3(65.4)</p> <p>◆家で自主的に計画をたてて勉強している 57.3(56.9)</p> <p>◆学校以外の学習時間 1時間未満 38.7(45.2)%</p> <p>◆将来の職業や生き方について考えたり、話したりして、取り組もうと思っていることがある82.7%≪68.6 全国中3≫</p>
豊かな心と健やかな体を育む教育の充実	支援教育・人権教育・生徒指導・保健管理	(3)支援教育 ・人権教育の充実	<p>①一人一人の障害の状況を踏まえ、生徒、保護者の思いに寄り添った支援教育を推進し、社会での自立に必要な力を育む。</p> <p>②同和教育、在日韓国・朝鮮人教育、多文化共生教育、障害理解教育、男女共生教育、性的多様性に関する教育等、社会にある人権課題に関する教育と平和教育を通じて確かな人権意識の育成に取り組む。</p> <p>③いじめなど身近な人権課題を解決する取り組みや「ともに学びともに育つ」教育を推進し、豊かな人権意識を育み、行動できる生徒を育成する。</p> <p>④教育活動、生徒指導の在り方について人権教育の視点から検討、改善に取り組む。</p>	<p>①支援教育委員会や支援学級担任会で、生徒の様子を共有し、個別の支援計画を踏まえた支援を進めています。</p> <p>②様々な人権課題について、講演会や体験の機会を工夫してもうけ、出会いを通じて学習しています。</p> <p>・金光敏さん講演会(リモート)(2年)</p> <p>・ちゃんへんさん講演会</p> <p>・手話講習会(2年)</p> <p>・車いす体験学習(1年)</p> <p>※多文化ルーツの生徒の「多文化のつどい」に今年も取り組みました。</p> <p>③毎日の「終わりの会」や「生活アンケート」等を通じて、自分のまわりに目を向け、解決する力の育成に取り組んでいます。</p> <p>④人権の視点から生徒指導規定や指導の中身の見直しを進め、生徒を人権と人格を尊重する指導をすすめます。</p> <p>◆命の大切さや、人権について学んだり考えたりする機会は大切だと思う。99.5(96.2※学ぶ機会が多い)</p> <p>◆いじめは、どんな理由があってもしてはいけないものだと思う 98.8%≪95.9 全国中3≫</p>

	(4)生徒指導の充実	<p>①教職員が組織的に生徒指導に取組み、全ての生徒が安心して学べる学校を実現する。</p> <p>②学級、学年集団づくりを生徒指導の土台に据え、自治・自律力のある生徒を育てる</p> <p>③薬物乱用防止教育やメディアリテラシー教育、交通安全教育、防災教育、食や睡眠に関する意識を育む教育により、生徒が自分を守る力を育む。</p> <p>④組織的な日常の見守り、教育相談活動の充実や生活アンケート、Q-Uテストなどにより、生徒の思い、困り感をきめ細やかに把握し、寄り添う指導を充実させる。</p> <p>⑤いじめ・不登校・虐待に対する教職員の意識と指導力を高め、未然防止と迅速で的確な初期対応に組織的に取組み、当該生徒を全力で支援する。</p> <p>⑥成育歴や家庭環境など生徒の背景の把握と、外部機関との的確な連携で効果的な生徒支援に取組む。</p>	<p>①生徒指導の担当を中心に、組織的に生徒の様子把握、問題対応に取り組んでいます。毎時間の始業時は、学年フロアで授業外の教師も、生徒の見守りをしています。</p> <p>②学級委員長を中心にした学年活動、生徒会本部、各委員会活動を通じ自治・自律力の育成に取り組んでいます。</p> <p>③コロナ禍の中、ICTを活用して学習を設定しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・薬物乱用防止教室(3年) ・スケアードストレート安全教室(1年) ・情報リテラシー講演会(全学年) ・避難訓練(全学年 教室で実施) <p>④各学期の生活アンケートを踏まえた教育相談、年2回のQ-Uテストや、日常的な生徒の状況把握のもと、組織的に生徒の見守り、支援に取り組んでいます。</p> <p>⑤「中宮中いじめ防止基本方針」を確認し、小さな兆しを見逃さない対応を進めるとともに、困ったときに、生徒が、教師に相談できる関係の構築をすすめます。</p> <p>コロナ禍の影響を受けて登校しにくくなるケースが複数発生しており、個別の対応の確保に向け、組織的な体制を見直し、強化します。</p> <p>⑥見守りが必要な生徒のアセスメントシートを作成し、内容を共有。特に課題がある生徒については、学期ごとにSSWとケース会議を行って対応を進めています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆落ち着いた雰囲気の中で授業を受けることができている 74.8(71.1) ◆先生は困っているときにいつでも相談に乗ってくれる 97.5(94.8) ◆学校に行くのが楽しい 90.6 (90.8) ◆生徒会行事や委員会活動、学級活動に積極的に参加している 88.6% (94.5※クラブ活動を含む質問)
	(5)道徳教育の充実 (6)健やかな体と心を育む教育	<p>①教科書の読み物教材を使った授業を中心に、問題解決的な学習や体験的な学習を適切に取り入れ、学校の教育活動全体を通じて、道徳的な心情、判断力、実践意欲と態度を育成する。</p> <p>①生徒の実態を踏まえ、生徒の体力向上や保健教育、命の教育に組織的に取り組む。</p> <p>②コロナウイルス感染症と感染予防の正しい知識を身に付けて実践し、感染者や医療従事者に対して偏見や差別なく適切に行動できる力を育む。</p> <p>◆学校教育自己診断などのアンケート結果や不登校やいじめ発生件数等生徒の生活に関わる指標の改善</p>	<p>①学年所属の教師が授業を担当する「ローテーション道徳」の形式で授業にと組んでいます。多様な教材を取り入れている一方、道徳の授業の「ねらい」を意識した授業づくりが課題になっています。</p> <p>①各学年で保健師による「命の授業(性教育)」を行い、生徒の発達段階を踏まえ正しい知識と、命を大切にす意識の育成に取り組みました。</p> <p>②感染防止についての知識と態度は生徒たちに定着してきましたが、一部に課題があります。命と人権を守るために毅然とした指導を進め、保護者にも理解を求めていきます。</p> <p>※再掲</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆命の大切さや、人権について学んだり考えたりする機会は大切だと思う。99.5 (96.2※学ぶ機会が多い) ◆いじめは、どんな理由があってもしてはいけないものだと思う 98.8% < 95.9 全国中3 >
教職員の資質と指導力の向上	研修 研修・学校評価	(7)教職員研修の充実	<p>①サービスや人権教育に関わる研修、セルフチェックなどにより、生徒に範を示す立場にある教育公務員であることを常に自覚して行動する資質を涵養する。</p> <p>②新学習指導要領のもと、つけさせる力を明確にした単元計画とめあて、課題設定など指導と評価の一体化を図り、わかりやすく効果的な3観点評価システムを確立する③学力向上担当者を中心に校内研修、学年及び教科の研究授業などに組織的に取組み、教科会議での授業プラン研究討議を重ねることにより全ての教員が「主体的・対話で、深い学び」の授業力を身に着ける。</p> <p>④教職員のスキルなど課題を把握し、効果的なICTの活用研修や環境整備に取組み、授業改善や業務の効率化をすすめます。</p> <p>⑤生徒指導主事を中心に生徒指導の実践や学級づくりなど課題に則した生徒指導研修に取組み個々の教員の指導力の向上を図る。</p> <p>⑥大人教や府外教が主催する研究会への参加や、人権啓発重点項目17項目などの人権課題に関わる校内研修、社会問題に関する情報共有を推進し、教職員が確かな人権意識、人権に関する知識と指導力を身につけ、人権教育を充実させる。</p> <p>⑦ローテーション道徳を活用した道徳の指導力の向上と評価の充実・改善に取り組む。</p> <p>○本校の課題を踏まえ、専門的な知見を持たれる外部講師を招請し、校内研修を実施しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●7/26 瀧本一夫先生(支援教育)※ 8/3 佐藤克敏先生(支援教育) 8/3 高木展郎先生(学習評価) 12/8 加賀田哲也先生(授業づくり)※ 1/6 伊丹昌一先生(支援教育)※ 1/24 明石一朗先生(人権教育) <ul style="list-style-type: none"> ◆担任の先生は、よりよい学級を目指して努力している 99.0(97.8) ◆先生は自分たちの意見や考えを大切にしてくれる 98.3(95.5) <p>○「思考をうながす問い」をテーマにした研究授業を、教科・学年・ミニグループと形態を変えて行いました。生徒主体の授業づくりや活用力を育む問題によって学ぶ力と意欲の向上に取り組んでいます。</p> <p>●校内授業研究の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 11/4 校区公開研究授業(中宮中) ・各学期一回の全体研究授業 ・グループ、教科等で全員が授業研 <p>④ICTサポート員の配置や、校内情報掲示板でのスキル共有により、ICT活用。連絡掲示板や職員会議もICTを活用し効率化をしています。</p> <p>○オンラインによる研修が増える中、研修の成果を全体で共有し、取り組みに充実を図っています。</p> <p>⑦道徳の授業力と評価の充実に取り組めます。</p>

<p>指導力の向上</p>	<p>研修 研修・学校評価</p>	<p>(7)教職員研修の充実</p>	<p>⑧学校教育目標「社会と自分を結び付けて考え、行動できる力を育む」の達成に向け、生徒の実態や諸調査、アンケートの結果等に基づき、各分掌でPDCA サイクルを働かせ、カリキュラムマネジメントに取り組む。 ◆自己診断アンケートの肯定的回答率の改善（教員・生徒・保護者） ◆研究授業・校内研修の活性化</p>	<p>⑧「育む3つの力」と、学習指導要領の「3つの学力」を意識して、学校のカリキュラム全体の見直しを進め、取組みの変更・改革を行いました。今年度の取組みを検証し、次年度の取組みの充実を図ります。 ◆授業でよくタブレットを使っている(毎日)96.3(91.4) ●タブレット等のICT機器を活用した授業を行っている。教職員 86.5%</p>
<p>学びのセーフティネットの構築</p>	<p>教育課程・情報提供・保護者地域住民との連携</p>	<p>(8)小中連携の充実 (9)危機管理 (10)家庭・地域との連携の推進・充実</p>	<p>①校区小中学校で育てる児童・生徒像を共有し、義務教育9年間の学びを見据えて系統的な学力向上・生徒指導・キャリア教育など校区一貫教育を推進する。 ②推進委員会、生徒指導部会、事務部会、支援教育部会などで校区小中学校の教員の顔が見える交流、情報共有を実現する ①新型コロナウイルス感染症感染防止に組織的に取組み、生徒の命と安全を守るとともに、新型コロナウイルスについて正しく学ぶ機会を設け、差別や偏見をなくす。②防災教育や、メディアリテラシー教育の充実により「自分を守る力」を育むとともに、保護者・地域と子どもを守り、育むネットワークを構築する。 ③ICT環境を生かした学びのセーフティネットワークの構築、充実を進める。 ①PTA、地域教育協議会やコミュニティなどの地域団体との情報交換、共同の取組みに積極的に参画し、地域の学校としての役割を果たす。 ②日常の教育活動について学校便りや学年通信、保健だよりなどの発行物、HP(ブログ)などの小まめな情報発信を進めるとともに、新学習指導要領と評価、コロナ対策や働き方改革をなど新しい学校の取組みについてもわかりやすい情報発信に努め、理解、協力を促進する。 ③PTAと連携してネットに関わる学習の機会を持ち、生徒とも意見交換し、具体的な校区の「ネットルール作り」などネットリテラシーに対する意識を醸成する。 ◆学校教育自己診断アンケートの肯定的評価を高める。 ◆小中校区一貫の取組みの充実。 ◆学校だより、ホームページ等の充実</p>	<p>○9年間の学びを見据え、“すべての生徒・児童が自ら考え行動し、多様性のある社会の中で共生できる力を育成する。”校区一貫教育の充実に取り組めました。 ★推進部会 5・10月 校区合同研修会 7・12・1月 校区研究授業 11月(中宮中) 校区事務部会 ①生徒の新型コロナウイルス感染拡大防止への意識、かなり定着しましたが、卒業生や家庭の意識や取り組みには差が感じられます。学校だよりやブログを活用した啓発、協力要請を充実させていきます。スマホ、SNSについても今後の課題です。 ②学級閉鎖などの連絡には、ミルメールやブログが有効な情報ツールです。各家庭のICT環境の実情を踏まえ、誰一人取り残さないセーフティネットワーク構築に取り組めます。 ◇子どもは、携帯電話やスマートフォンの使い方のルールやマナーを正しく守っている 68.4% (57.6) ①感染防止による制約の中でしたが、各団体役員の方々のご尽力により、連携を維持、推進できました。また、創立50周年記念行事実行委員会の方々による記念誌・記念品の発行をいただき、生徒・保護者の地域に対意識に対する育成が大きく進みました。 ②家庭との連携の充実を図るため、学校だよりやブログを活用した情報発信に取り組めました。特に、タブレットやブログを活用した新型コロナウイルス感染拡大防止についての協力依頼や学校からの配布文書の連絡はタイムリーに発信できました。 ③コロナ対応の為、PTAと連携したメディアリテラシー向上の取組みは、できませんでした。家庭での時間が増える中、子どもを守る取組みの充実は、今後の重要な課題です。 ◆自分が住む地域や社会をよくするために、何をしたら良いかを考えることがある。60.7% (全国43.8%) ◆ホームページ(ブログ)などを通じて学校の取組みや子どもの様子を積極的に発信している89.6% (81.3%) ◆学校は、ホームページ・学級通信・学年通信・進路通信・校長通信などで、家庭との連携、適切な情報提供、意思の疎通をきめ細かく行っている 81.3%(78%)</p>

4. 次年度に向けて

項目	内容	○改善方策
<p>研修 学習指導・特別支援 教育環境整備</p>	<p>○ICTを活用したオンライン授業やハイブリッド授業、感染予防に取り組むながら、学習班を生かした協同学習を進め、「考える力」「言語力」「コミュニケーション力」の育成に取り組めました。 ○「学習障害」や「困り感」のある生徒がいることを念頭に、教室環境だけでなく授業そのもののユニバーサルデザイン化を進める必要があります。</p>	<p>○ICTの活用により授業を充実させるため、プロジェクター、スクリーンなど機材の設置、教室環境整備を進めます。 ○生徒の困り感に寄り添う授業について、校内研修や他校の実践から学び、授業のユニバーサルデザイン化を進め、学習のつまずきの解消を進めます。</p>
<p>学習指導</p>	<p>○低学力の生徒の学力保障のために、さらに効果的な方法を工夫する必要があります。 ○家庭学習習慣の定着は2極化が進んでいます。現状を踏まえて、効果ある取組みについて検討しています。</p>	<p>○校内研修を充実させ、日常生活につながる「言語力」「コミュニケーション力」の育成を進めます。 ○主体的に学ぶ力の育成、家庭学習習慣の定着を意識した授業づくり、課題と評価について研究、実践します。</p>
<p>教育課程 キャリア教育</p>	<p>○総合的な学習を軸としたカリキュラムとキャリアパスポートを活用したキャリア教育の充実により、「自分と社会を結び付けて考え、行動することができる生徒」を育成する。 ○学校教育目標「社会と自分を結び付けて考え、行動できる力を育む」の達成に向け、生徒の実態や諸調査、アンケートの結果等に基づき、各分掌でPDCA サイクルを働かせ、カリキュラムマネジメントに取り組む</p>	<p>○「自分と社会を結び付けて考え、行動することができる生徒」の育成に向けて、総合的な学習を軸にしたカリキュラムマネジメントを充実させ、中宮中の生徒の生きる力を育むキャリア教育に取り組めます。 ○学校教育目標の実現に向け、教育活動全般について諸調査の結果や生徒の実態把握に基づくPDCA サイクルを働かせて充実を図ります。</p>
<p>生徒指導</p>	<p>○コロナ禍の影響を受けて登校しにくくなるケースが複数発生しており、個別の対応の確保に向け、組織的な体制を見直し、強化します。</p>	<p>○生徒指導主事を中心にケース会議を組織、不登校傾向にある生徒の状況、背景を把握し、個に応じた的確な支援で、不登校を未然防止し、学校復帰を促進します。 ○開発的な生徒指導を充実させ、生徒をエンパワーします。</p>

上記の内容で令和3年度の学校評価をしました。新型コロナウイルス禍が長引き、今年度も学校が計画していた教育活動が大幅な変更や縮小を余儀なくされる中、子どもたちへの教育を継続し、質を落とさないための取組みを模索してきた一年となりました。

学校教育目標と改訂学習指導要領を踏まえて内容を見直した自己診断アンケートの生徒の回答傾向を主な資料として、今年度の取り組みの成果と課題をまとめさせていただきました。

先日、書面で実施しました学校協議会で寄せられましたご意見を踏まえて、令和4年度の本校教育を充実させてまいります。

枚方市立中宮中学校 校長 町田弘明